

みちのり

シリーズ⑥
和雄さん 1941年兵庫県伊丹市生まれ。同市在住。中国名・王 志山

祖国での仕事は誇りと生きがいを得た

寒くて、寒くて仕方がなかった。その時、誰かに着せてもらった上着の、あの何とも言えない暖かさだけは、今でもはっきりと覚えている。それが、残留孤児としての生活の始まりだった。その心がついた時には「王 志山」として、養父母、11歳上の姉と黒龍江省海林県海南郷北拉古で暮らしていた。のちに妹が生まれ、家族5人裕福ではないが仲良く生活していた。自分は日本人の子ともたわわわわわわが、名前や実の親の顔さえ、記憶もなければ知るすべもなかった。

農業の達人
志山少年は、体の弱かった養父を助けて、小さい頃からよく農場の仕事を手伝った。小学校卒業後、糧農として本格的に大豆・米・とうもろこし・小麦を作った。種まきのタイミングや除草剤の使い方などは特に難しく、経験と努力と工夫を積み重ねた。82年頃、所属していた人民公社が解体され、約1.5haの土地が配分されると、耕運機を導入してますます



スタッフの問いかけに身振りを交えて答える和雄さん(パラグループ教室で)

仕事に精を出した。隣接している他の家の田畑と比べて、自分の農地にはひととき実りの多いことが楽しみであり誇りでもあった。

父との再会

日中国交回復後、志山青年は日本への想いを強くした。日本に帰りたい。父に会いたかった。父に会いたかった。4人の子とも達の将来も日本ならきつと明るいものに違いないと思った。84年ようやく第6次訪日集団調査に参加できた。左手首の大きなあざと、2歳の時に受けたヘルニアの手術痕で、身元が判明。父に再会することができ、自分が「和雄」であることを初めて知った。

母に連れられ満州へ

41年10月12日、伊丹市で生まれた和雄さんは、すぐに母に連れられて父の

が、日本語や日本の生活の習得はわずか1年余りで不十分なまま、吹田市のJR機関車の清掃作業に就いた。長い通勤時間と過酷な労働で体をこわし、1年ほどでやめざるを得なかった。その後布地を作る会社に勤めたが、阪神淡路大震災で倒産。それから地下鉄の清掃や化学工場の臨時工として働いた。言葉がわからず、仕事は単純作業ばかりで、賃金も少なく、非常に苦しい生活を強いられた。夢にまで見た祖国での生活は、あまりにも残酷な現実だった。

パラグループで学習
現在、和雄さんは、パラグループで勉強をしている。物静かで控えめではあるが、討論形式の学習でも、ややこしい文型の学習でも、いつも積極的だ。そこには、これまで何事にも真面目に取り組んできたことへの静かな自信があらわれている。

和食の中では、白いご飯のおにぎりが一番好きだという和雄さん。「緑茶はおいでない」と自宅であたたかい中国茶(ジャスミンティー)を淹れてくれたその笑顔の中に、長かった中国での生活が滲んでいた。

(聞き手 田中いずみ)

学習者の紹介



重光洋子さん、自宅の居間で

梅グループの重光洋子さんを紹介します。重光さんは1944年生まれ、中国残留孤児(重光孝昭さん)の配偶者です。

Q 日本に来られたのはいつですか?
A 84年7月6日。夫と当時中学生と小学生の3人の子と一緒でした。

Q 日本に来た時の生活は?
A 日本語がわからずつらかった。生活保護は恥ずかしいことと言われ、すぐに働き始めた。このとき会社で、昼になり、職場の人が「めし、めし」と言った。何のことかわからなかった。言葉は分からなかったが、子供のために必死で働いた。

Q ご主人とはどこで知り合いましたか?
A 中国で同じ職場だった。夫は会社の設計技師だった。

Q 日本人であるご主人との結婚に反対はありましたか?
A 少しあった。それ以上に夫が気に入っていた。

Q 日本ではどのような仕事をしましたか?
A 日本に来て2年間は「日本硝子」で瓶の箱入れ。そのあと20年間「リネンサービス会社」。今の生活はどうですか?
A 義母、義叔母(夫の母とその妹)が近くにおり、やさしい。言葉や生活で時々助けてくれる。また、昔の会社の人が近くにいる話相手になっている。それがうれしい。

Q いままで一番つらかったことは?
A 言葉がわからないこと。

Q 楽しかったことは?
A 旅行がいい思い出。「信州の木曾路」が古い日本を見て良かった。これからは多く旅行したい。それが夢。

Q 日本語はどこで学びましたか?
A 日本にきたとき所沢センターで4ヶ月学んだ。ぜんぜんわからなかった。その後、学ぶ機会が無く、この尼崎日本語教室がはじめてです。

Q 日本語教室の感想は?
A 先生が優しく、来るのが楽しい。

Q これからの目標は?
A 今取り組んでいるのは毎朝1時間の散歩、ずっと健康でいたい。

40歳で日本に来ては30年。その間、日本語での苦労もありましたが、また多くの人との出会いもありました。これからも好きな旅行を楽しみ、健康にも留意して一日一日を大切にしたいと語る洋子さんです。

(聞き手 杉本利一)

交流の広場

新年快乐!

大盛況の交流会

2月2日(日)、尼崎市立小田地区会館で「コスモスの会新年交流会」を開催しました。

この行事は、学習者とボランティアが一緒になって料理を作り、大勢の家族や友人が参加して交流する大きなイベントの一つです。



餃子に加えて鶏肉のから揚げ、焼きそば、大学芋(おでんは自宅を)を作りました

「新年会の感想」
松倉秀子
日本語教室の先生と生徒たちが早目にいろいろな料理を作りました。皆さん笑顔でおいしそうに食べたり、話したり、とても嬉しかったです。新年の目標を考えて更に頑張りたいです。

舞台上で歌ったり、太極拳をしたり、お客様が演奏をしました。すばらしいでした。最後にみんなで一緒に歌いました。一番賑やかで楽しかったです。



日本語教室の紹介では大きな中国の地図を作り学習者の出身地が紹介されました



飛び入りで宝塚教室の学習者とスタッフの太極拳も披露されました

- 主な行事**
- 1月19日 健康体操・美顔ケア
中国語おしゃべりサロン
 - 2月2日 新年交流会
 - 2月9日 手芸・かぎ針を使いエコたわし作り
中国語おしゃべりサロン
 - 3月9日 手芸・クラフトテープで
ブローチ製作
中国語おしゃべりサロン
 - 3月25日 学習発表会
 - 4月13日 料理教室・レンコンの中華風と和風料理
- (田村博志)

お知らせ

「ニイハオ黒龍江」発刊!

昨年の夏、「日本語教室に通う中国残留日本人の方々が生きた地を、この目で確かめたい」とボランティアたち11名が、旧満州中国東北地方を旅しました。そこで出会った驚きや喜び、悲しい歴史の現場……。現地の人々との交流に感動し、新しい発見もいっぱい。8日間を、小冊子にしました。全員が、体験した思いを様々な角度から綴りました。たっぷりの写真と共に楽しんでいただけたらと思います。ぜひ一読ください。

連絡先 宗景 正
(06) 6493-5563

ニイハオ黒龍江
中国残留日本人のルーツを訪ねて

2013年7月30日～8月6日

ハルビン 佳木斯 樟南 依蘭 方正 阿城

コスモスの会
尼崎日本語教室

A5版60ページ カラー印刷 自家製本
頒価 800円



伊東和子先生の講義を聴く日本語教室のスタッフ、宝塚市の日本語教室(ともだち)の方も参加されました

学習者に役立つ教材
1月から3月の第3学習日に「日本語教え方研修会」を開催し、講師には昨年度と同様大阪YWCA日本語教師会の伊東和子先生をお願いしました。

1回目は「生活場面に密着した日本語」、2回目は「教科書の使い方」(市販の教科書の選択や手作り教科書の活用など)を話し合いました。

3回目は講師が牛乳パックやカレールーの箱などを持参され、「身近なものを教材に使った学習」の方法を講演しました。実物を見ながらの学習は、指導する側も学習者も理解しやすく、また興味が持てるだろうと感じました。

(田村博志)